

FD Information



CONTENTS

- 平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』の受賞について▶1
- FD推進 活動レポート▶6
- 平成28年度前期「授業アンケート」の実施
- FD交流会(事例発表)の実施
- 学外FD企画 参加レポート▶7
- 平成28年度後期「授業アンケート」の実施について▶8
- FD関連図書のご案内▶8

平成27年度後期 京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』の受賞について

アンケート結果を活用した取り組みとして、学生による「授業アンケート」の結果に基づき、学生から高い評価を得ている授業を顕彰するため、京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』を実施しています。

今回8名の教員が京都女子大学『学生アンケートによる優秀授業賞』を受賞され、平成28年7月27日(水)、本学A校舎大学新会議室にて表彰式を行い、学長より表彰楯が贈呈されました。

なお、受賞された教員には本学の授業改善活動に資するため、「授業紹介シート(授業の取り組みや工夫など)」の執筆にご協力いただきましたので、ご紹介いたします。

※「授業紹介シート」は本学ホームページ(<http://www.kyoto-wu.ac.jp/>)から「大学案内」を選択後、「教育の特色」項目内の「FD活動」ページからも閲覧いただくことができます。



「教育の特色」を選択後、「FD活動」ページから閲覧。



受賞対象授業名 … 生化学実験
 曜日・講時 …… 金曜日3-5 講時開講
 担当者名 …… 松本 晋也
 所属学部・学科 … 家政学部食物栄養学科

授業の取り組みや工夫などについて

本科目は、生体内の化学反応が実際の生命活動や身体の機能の基礎になっていることを実験を通じて理解することを目的とします。したがって、化学反応を正確に再現するための原理と操作を習熟することはもちろんですが、化学反応とそれに立脚する生命現象とを関連づけて理解できることが重要です。ただ、理系学生には生化学の意義を理解するのはそれほど難しくありませんが、文系出身者や化学を得意としない学生には取っつきにくいものです。そこで、いかに苦手意識を克服し、集中力を持続させるかを念頭に、本科目では以下の点に気をつけながら授業を進めています。

1) 実験の全体像(化学反応の概要と生命活動との関連性、実験の目的・手法・解釈)を理解してもらえよう説明を工夫している。

→ 説明は、簡潔かつ短時間に終わるようにする。詳しく説明すればより深く理解できるというのは必ずしも正しくはなく、加えて教員は概して多弁に陥りやすいことから、長い説明は却って学生の理解を妨げると感じている。誤解を恐れず単純化して説明した方が集中力の維持と全体像の理解には効果的だと考えている。

2) 遂行した実験、得られた結果と解釈、及びレポートにはきちんとレスポンスする。

→ 学生はそれなりの時間とエネルギーを投入して実験をおこない、レポートを作成しているので、それに対してきちんとレスポンスすることにより学生の達成感と充実感獲得に貢献すべきだと考える。実際、きちんとレスポンスした時には、学生からの反応(いわゆる「食いつき」)が断然良いという感触を抱いている。

なお、安全で効率がよく、同時に学生からの評価が高い学生実験を提供することは教員だけでは不可能だと考えています。今回「優秀授業賞」をいただくにあたり、学生実験の準備や補助をおこなってくれたLSの存在なくしては受賞はあり得なかったと考えています。

受賞対象授業名 … 伴奏法
 曜日・講時 …… 水曜日3 講時開講
 担当者名 …… 土居 知子
 所属学部・学科 … 発達教育学部教育学科

授業の取り組みや工夫などについて

この授業は、教育現場や演奏表現活動における“ピアノ伴奏”に欠かすことのできない音楽的基礎知識や柔軟性に富んだ多様な実技力を修得し、伴奏がもたらす役割とその重要性を理解してもらうことを目標に掲げています。内容としては、中学校・高等学校の音楽の教科書に掲載されている主要楽曲をはじめ、声楽の授業でもよく取り上げられるイタリア歌曲・ドイツ歌曲・日本歌曲にもスポットを当て、一人一台ずつ電子ピアノを使用しながら、実践的なスキルが身につくように授業を組み立てています。主に、《読譜法》《音楽解釈法》《演奏表現法》といった3つの視点から“音楽的な伴奏のあり方”を探っていき、実技力のみならず、聴く力・合わせる力・コミュニケーション力・反応力・発想力・柔軟性・創造性など、多岐に亘る能力を有機的に結び付けられるよう、選曲や指導言語においても出来る限りの工夫を施しました。

授業内の取り組みや進め方で、配慮している点・工夫している点について、まとめてみました。

- 毎回の授業における単元目標を明確にし、学生各自における現時点での課題とその解決法を考えさせる。
- 実技系授業の性質上、予習・復習にあたる“日々の練習”は不可欠であるため、その必要性を説き、練習することが習慣づきような言葉がけを毎時行う。
- これまでに履修した関連科目(前期「器楽基礎Ⅰ」等)との連続性と、別の実技系科目への応用性に視点を置き、学ぶべき要素の定着と発展に結び付く楽曲をチョイスする。
- 実技を伴う一斉授業では、全員に目や耳が行き届かなくなりがちだが、できる限り机間(鍵盤楽器間)巡視を行い、場合によっては個人的なワンポイント指導も行う。

- 隣に座る学生同士で“弾きあい・聴きあい・指導しあい”を行うことにより、主体的・協働的学び《アクティブ・ラーニング》の姿勢も大切にしていく。
- 教員自身の演奏活動における経験のなかで学び得たことや失敗談などを紹介し、伴奏という分野やその表現法に興味を持ってもらうような話題を提供する。

以上のような方法で、学生の反応を見ながら試行錯誤を繰り返しています。この授業で学ぶプロセスを通じて、課題解決力や傾聴力、コミュニケーション力といった《ジェネリックスキル》の獲得へと繋げていける学生が一人でもいてくれたら…、と願っています。

授業区分② 受講者数が50名以上～99名以下の開講授業

受賞対象授業名 … 英語で読む京都
 曜日・講時 …… 火曜日 5 講時開講
 担当者名 …… 甲斐 雅之
 所属学部・学科 … 文学部英文学科

授業の取り組みや工夫などについて

京都についてあまり知らない学生が多いので、英語だけでなく京都について知ることに重点を置いて、量よりも質を優先させました。授業スタイルとしては一方的に英文を読んで説明するのではなく、できるだけ机間に入り学生に語りかけながら進めていきました。説明の言葉は理解しやすいよう身近で易しい語彙を使うよう心がけました。日本の事象の説明用として使われている英語の用語（建築用語、食品、宗教関連用語）については、画像を使って原義を理解させることで定着を図る努力を行いました。（例えば、「こしあん」とpureeやpasteのイメージ、「東屋」とその訳語に使われるarborのイメージの異同について等）

教材は、英米人が書いた英語による京都の紀行文やガイドブックの抜粋を利用していました。ただし、単に文献を読むだけでなく、関連する事象については自分で現地に赴き撮影をした写真やGoogle地図も使用し、具体的で理解しやすくなるよう工夫しました。教材の提示にはiPhoneを利用し、合わせてインターネットでの英語情報の収集の仕方にも触れました。また、京都はサスペンスドラマの舞台としてもよく登場するうえにコンパクトな観光案内にもなっているので、サスペンスドラマの冒頭20分ほど(事件が起きるまで)も教材として利用しました。他にも日本を扱ったバラエティ番組、BBC等の海外メディアの取扱もまめにチェックし、適宜授業で利用しました。和菓子を扱った回では、英文に出てくる和菓子屋に取材に行き、受講生の人数分のお菓子(饅頭)を購入し、実物を見て味わってもらえるよう配布しました。

受賞対象授業名 … 社会科教育内容論
 曜日・講時 …… 火曜日 1 講時開講
 担当者名 …… 松岡 靖
 所属学部・学科 … 発達教育学部教育学科

授業の取り組みや工夫などについて

本講義の取り組みの特徴は次の二点である。

第一は、社会科教育学における基礎的理論を「習得」させる場面と理論を「活用」し、社会科授業を改善する場面を明確化し、講義構成上に位置づけていることである。

第二は、教科書に基づく具体的授業を取り上げ、教材構成の視点から具体的な授業改善の方法を学生自身が思考できるようにしていることである。

前者に関して言えば、今日、アクティブラーニング全盛であるが、アクティブラーニング自体が目的化され、活動的であれば良しとされる風潮があるのではないだろうか。本講義では、「習得型アクティブラーニング」と「活用型アクティブラーニング」の講義形態を意識し、基礎的理論を講義形式で確実に「習得」させる場面とそのような理論を「活用」し授業改善を果たす場面を明確に位置づけることで、理論と実践が結合した講義になるよう心がけている。

また、後者に関して言えば、実際の社会科授業ビデオを視聴させ、学生の社会科授業に対する問題意識を高めた上で、教科書批判の視点から教材構成の在り方について検討させ、学生自身が考えた授業改善策をワークシートに記述し、毎回提出させるようにしている。これらの提出物を毎時間評価し、翌週、学生に返却することで、指導と評価が一体化した講義となるよう心がけている。

最後に、昨年度の本講義に関して振り返れば、1講時目といったこともあり、当初、集中できない学生も見られたが、講義を重ねるにつれて学生の集中度が高まり、社会科授業改善に熱心に取り組もうとする学生が多く見られた講義であった。

受賞対象授業名 … スポーツ栄養学
曜日・講時 …… 火曜日 3 講時開講
担当者名 …… 寄本 明
所属学部・学科 … 家政学部食物栄養学科

授業の取り組みや工夫などについて

この授業において心がけているポイントは次の三つです。

1. 受講生の多くはこの教科に関心を持っていますが、あまり馴染みのない教科です。そこで、毎時間重要ポイントを授業の初めに発表しています。終了時には理解度をチェックするため、A5版用紙に簡潔にまとめ、提出してもらっています。このまとめは試験の問題ともリンクしています。
 2. 1回の講義で教科書1章(1テーマ)を完結しています。さらに、先のまとめの用紙に授業に関する質問や意見を記入し、レスポンスペーパーとしても活用しています。その内容は、次回の授業に反映出来るよう心がけています。
 3. テキストや資料を用いた講義だけではなく、理解を深めるため毎時間のテーマに応じた適切なDVDの映像教材を数分(5分程度)に編集し、活用しています。また、テーマによっては実態や実践例を示し、出来るだけ具体的に紹介しています。特筆すべきことではありませんが、授業の初回にはシラバスの内容を確認しています。特に、成績評価については明確にその基準を示し、相互理解のもと授業をスタートさせています。
- 以上がこの授業の取り組み報告です。

授業区分③ 受講者数が100名以上の開講授業

受賞対象授業名 … 英語圏研究3
曜日・講時 …… 月曜日 2 講時開講
担当者名 …… 廣田 園子
所属学部・学科 … 文学部英文学科

授業の取り組みや工夫などについて

当該授業で取り上げたテキストはカナダ文学の名作『赤毛のアン』であるが、書名になじみはあるもののストーリーは把握していない学生が大半であり、また一見単純な少女小説を如何に「研究」するのか、という疑問を抱いていた者も多かった。そこで最初にストーリーを概観した後、毎回の授業では「孤児」「赤毛」「翻訳」「教育」「伝記的アプローチ」等のテーマに沿って、関連する場面を原作及び映画によって紹介し、他作品との比較や歴史的・文化的背景などをプリント資料及びパワーポイントによって提示した。

100名を超える講義形式の授業であったが対象が他学部生も含む3年生ということで、できる限り受け身の姿勢に留まらない批評的思考を養うべく、各回の授業ではテーマに関連した『『赤毛のアン』はフェミニズム小説だろうか?』等の問題提起を行い、全ての学生に出席票の裏に自らの意見を記入させた。そして次回授業で優れた回答のいくつかを紹介する形を取ったが、他学生の思いがけない視点を知ることは大きな刺激になったようで、この部分の反応は特に活発であったように思われる。

毎回非常に詳細なコメントを残してくれる学生も多数存在したので、今後は希望する学生に短時間でも発表の機会を与えるなど、学生がアクティブに参加できる講義の形を更に検討することで、受講生にやりがいを感じてもらえるよう、一層努力していきたい。

受賞対象授業名 … 民法 I (総則)
曜日・講時 …… 火曜日 3 講時開講
担当者名 …… 岡田 愛
所属学部・学科 … 法学部法学科

授業の取り組みや工夫などについて

本講義は、1 回生後期の必修科目であるため、以下の 3 点を意識的に行っている。

- ① 抽象的な条文から具体的な例を示し、再度条文へ戻る、という手順を踏む。

たとえば、民法 1 条 3 項「権利の濫用はこれを許さない」という条文について、まず趣旨や背景を説明した後、この条文を使って解決した事案(判例)を説明し、再度条文を説明する。この手順をふめば、2 回説明を聞くことになるので、多少難易度が高くても理解できる。さらに、具体例を通じてその制度が自分の生活と関わっていることに気づき、興味を持って聞いてもらうことができる。

- ② テキストに沿ったレジュメを作成して説明する。

テキストの内容と私見が異なる場合でも、基本的にテキストに沿って資料を作成、説明して、学生に自主学習を促している。一方、学問的興味を持ってもらうために、時にテキストとは異なる見解を示したり、現実の問題点を指摘したりして、テキストの見解が完全でないことを示し、さらに学ぶ大切さを感じてもらおうように心がけている。

- ③ 課題の添削と解説

論述式的答案を書くことができるように、また法的思考力を高めるために、課題を出し、それを全て添削、返却し解説している。添削作業がかなり大変であるが、確実に力を伸ばすので、頑張って取り組んでいる。

今後の課題は、学習意欲の低い学生に対する対応とレベルの維持である。必修なので全学生が履修するが、学生の成績が二極化しつつある。上位層も増える一方で合格レベルに達しない学生数も増加傾向にあるため、意欲の低い学生の底上げを図っているが、十分対応できていないと感じている。また、講義のレベル設定が年々難しくなっており、これらの課題を検討中である。

受賞対象授業名 … 教育課程論
曜日・講時 …… 金曜日 2 講時開講
担当者名 …… 上月 智晴
所属学部・学科 … 発達教育学部児童学科

授業の取り組みや工夫などについて

本科目は、児童学科 2 回生後期に開講されている幼稚園教諭免許・保育士資格必修科目です。幼稚園・保育園における教育課程・保育課程の編成の意義や、指導計画作成の実際を学びます。

学生ができるだけ興味・関心を持って学習に取り組めるように、授業では、まず学生が 2 回生夏休みの保育実習で経験した「日案」レベルの指導計画の振り返りから始めています。学生は初めての現場実習を終えたところで、特に「日案」の書き方について、いろいろな反省や疑問を持って帰ってきたところで、まずはその課題に応えることから授業をスタートします。

その後、教育課程・保育課程の意義・必要性、年齢に応じたカリキュラム、行事計画、子ども理解に基づいた指導計画の作成、長期的計画と短期的計画の関係、計画・実践・評価のサイクルなど、多様な保育実践例をもとに考察していきます。

受講生は、100 名を超える多人数ではありますが、ディベート、グループディスカッションをできるだけ取り入れながら、教員・学生の双方向型の授業、学生同士が協同的に学び合う授業を目指しています。また、一度の実習経験しかなく、保育現場・保育実践・乳幼児のイメージをまだ豊かに描くことに難しさのある学生が、できるだけリアリティーのある教育課程・保育課程の編成、指導計画の立案力を身につけていけるように、さまざまな保育実践記録・視聴覚教材を取り入れるなどの工夫をしています。

①平成28年度前期「授業アンケート」の実施

授業の改善、教育の質向上に資することを目的として、平成28年度前期授業期間に「授業アンケート」を実施しました。

【後期】 実施期間：平成28年7月4日(月)～8月3日(水)

対象科目：平成28年度前期開講科目

(通年科目、前前半開講科目、受講者数10名未満の科目(希望する場合は実施可)は除く)

実施件数：1,215科目(なお、所見の提出は928科目〔※平成28年11月2日時点〕)

※科目数について…専任教員は、受講者数が10名以上のすべての担当授業(「演習科目」を含む)について実施。

非常勤講師は、任意に選択した1科目(1クラス)以上。

★「授業アンケート」の所見及び授業別の集計結果を本学Web上に公開しました!

「授業アンケート」の集計結果に基づき執筆された所見について、11月中旬より学内Web上に公開しました。

具体的な閲覧方法については、学内Webの「[修学Q & A](#)」を選択の上、「[授業評価所見を見たい](#)」をクリックすると検索方法をご覧ください。

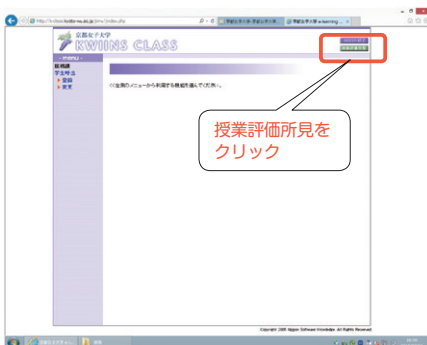
また、学生へのアンケート結果の公表及び学生の授業選択に資するため、自由記述項目入力データを除く授業別の個別集計結果についても学内Web上に公開しています。学内Webの「[学籍・修学](#)」ページ内にて公開していますので、ご利用ください。

【学内Web画面】



KWIINS CLASSに
ログイン

【KWIINS CLASS画面】



授業評価所見を
クリック

【検索方法(概略)】

- ① KWIINS CLASSにログインする。
- ② 画面右上の「[授業評価所見](#)」をクリックし、授業評価所見検索画面に入る。
- ③ 教員名から検索する場合は「[教員検索](#)」をクリックし、担当者名を選択する。(教員検索は教員名を直接入力しても検索できません。必ず「[教員検索](#)」から検索してください。また、科目名から検索する場合は科目名を入力してください。)
- ④ 「[検索](#)」をクリックし、表示された科目を選択すると所見が表示されます。

②FD交流会(事例発表)の実施

日時：平成28年10月19日(水) 15時～16時 会場：A校舎301教室

各学科・専攻などで実施されている「FDの取り組み」や、各教員が取り組んでいるFDについてその事例を発表し、他学科・専攻の取り組みの情報共有及び参考とするため、今年度は「クリッカー[※]を活用した授業の展開について」をテーマとしたFD交流会(事例発表)を開催しました。

事例発表では、昨年度実際にクリッカーを活用した講義及び演習を展開された法学部法学科の松塚晋輔教授と岡田愛准教授より「クリッカーによる学習の成果と今後の課題」と題し、それぞれ実践された経験をもとにご報告いただきました。利用した場合の効果として、概ね学生からの反応は良く、集計結果が即座にグラフ等で示されるので、興味を持って話を聞くことが挙げられる一方、課題として、準備・後片付けにかなりの時間や労力を要するため大人数の授業には不向きではないか、また、動作不良が発生した場合に授業の進行に影響を及ぼすこともあるといった点が示されました。

なお、当日は72名の教職員の参加がありました。次年度もテーマを設定し、本交流会を継続していきたいと考えております。ご要望など、どうぞお気軽にセンターまでお寄せください。



※クリッカー…授業で学生が応答用に用いるリモコンのことで、教員が授業中に学生の反応をリアルタイムに集計することができる。

★学内Webにて当日の収録内容を公開しています！

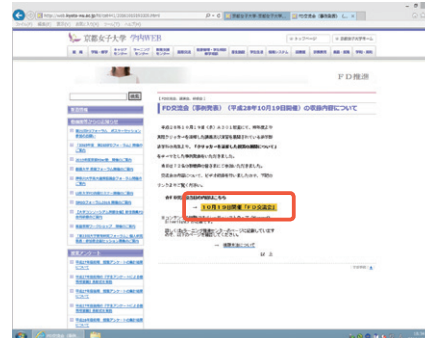
交流会の内容について、ビデオ収録を行いましたので、学内Web「教職員専用」の「FD推進センター」ページ内にて公開しています。ぜひご活用ください。

視聴までの流れ

①「教職員専用」ページにログイン

②「FD推進センター」ページにアクセス

③交流会のページを開き、網掛け部分をクリック



※コンテンツの視聴にはプレーヤーソフトウェア (Microsoft Silverlight) が必要です。

学外FD企画 参加レポート

FD推進センターでは、FDに関連したセミナー、シンポジウム等の開催について案内しています。実際に参加された先生に、当日の様子や感想をお伺いしました。ぜひ、今後の参考としてください。

●第16回 山形大学FD合宿セミナー 「相互研鑽による大学教育の飛躍をめざして」

日程：平成28年9月5日(月)～6日(火)

会場：協同の杜 JA研修所(協同の杜 山形県農業協同組合研修所)

主催：山形大学教育開発連携支援センター

法学部法学科 岡田 愛 准教授

今回のセミナーは、グループでアクティブ・ラーニングを導入した仮の授業を設計し、それを実際に体験することによって、自分の講義でアクティブ・ラーニングが導入できるようになることを目的として行われた。

セミナーには、関東から東北地方を中心に全国から集まった、看護、衛生学、医学やロボット工学、数学、また音楽や教育学、会計学、経営学などなど、多種多様な分野を専門とする教員が42名参加し、性別や年齢構成、専門分野を考慮した7名ごとの6班に分かれ、一泊二日寝食を共にしつつ与えられた課題に取り組んだ。

セミナーの目的である、アクティブ・ラーニングが導入できるようになるための具体的な方法として示された内容は、仮のシラバス作成を班ごとに分かれて行い、講義のテーマや目的はもちろん、授業の具体的な方法や成績評価を検討して、最終的には全員の前で7分間の模擬授業をする、というものであった。

私達C班に与えられた課題は、国際性を培う授業、であり、そのためのシラバス作成および7分間の模擬授業の準備を、延べ4時間30分という時間内に行う必要があった。こんなことに4時間以上かかるのか(ちなみに各班とも時間が不足、懇親会そっちのけで議論したり、深夜近くまで集まったりの課外学習状態であった)、そんなことに何の意味があるのかと思われるかも知れないが、これまで気付かなかった自分の固定観念を自覚する大変良い契機となった。つまり、分野も年齢も異なる教員が、「国際性を培う」という抽象的なお題を与えられて、各人が異なる講義のイメージを膨らませたため、それをどうやって一つの形に仕上げていくか、その検討が非常に大変であったということである。しかし、この大変さこそが重要であり、なぜそれを学ばせたいのか、またなぜその方法で学ばせたいのか、どこまでを学生にさせてどこまで介入すべきかなど、互いに理由を聞き、そこから、それよりもこちらを学ばせてはどうかとか、そうであるならばもっとこの方法はどうかとか、建設的な意見を述べ合うことで見事なシラバスが出来上がっていった。その過程で、自分が日ごろ行っている講義や演習を振り返ることになり、多くの反省と発見があった。また、模擬授業を行うために色々な学生を想定してその役作りをしたことから、これまでの、教員という立場から学生の考えや気持ちを斟酌する、という意識が外れて、完全に学生の目線に立って自分の講義を見直すきっかけとなった。

今回のFD合宿セミナーで得られたことは、自分の固定観念に対する自覚であり、それは、他の分野、他の教員との交流によるところが大変大きかった。FD活動は、やはり教員相互の交流が重要であると再認識した。

平成28年度後期「授業アンケート」の実施について

平成28年度前期に引き続き、本学教員の授業改善、教育の質向上に資することを目的に「授業アンケート」を実施します。実施にあたっては、以下のとおりご協力くださいますようお願いいたします。

1. 実施時期 平成28年12月6日(火)～平成29年1月21日(土)

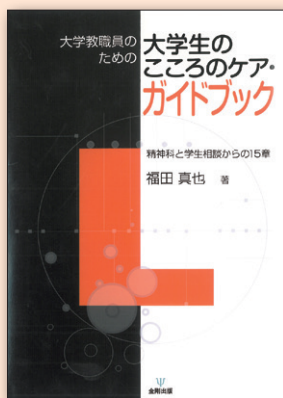
- 2. 実施方法**
- (1) 実施する授業中の適当な時間あるいは試験終了後の時間に、封筒に入れてある「アンケート用紙」を配布してください。
 - (2) アンケート用紙に記載してある「調査の趣旨」(最初の2行)を読み上げ、学生に回答を依頼してください。
 - (3) 回答を終えた学生から用紙を裏向けにして提出させてください。受講者数が多い科目は直接封筒に入れさせるなど、回収方法はクラス規模に合わせて適宜提出しやすい方法を探ってください。なお、受講学生中より代表者を数名選び、当該学生に責任をもって回収させても結構です。
 - (4) 回収を終えた用紙は、必ず元の封筒に入れてください。その際に、未使用分のアンケートは封筒に入れずに、別にしてください。

- 3. 提出場所**
- (1) 専任教員 各校舍分室または学部事務課に提出してください。
 - (2) 非常勤講師 講師控室または学部事務課に提出してください。

★FD関連図書のご案内

FD推進センターでは、FDに関する図書資料、他大学のFD報告書及びニュースレターを閲覧できるようにしています。ご希望の方はセンターまでご連絡ください。

また、FD推進センターで所蔵した方がよいと思われる書籍がありましたら、各学科・研究科のFD推進委員会委員またはFD推進センターまでご推薦ください。



大学教職員のための 大学生のこころのケア・ガイドブック 精神科と学生相談からの15章

福田 真也 著
発行所：株式会社金剛出版
出版年：2007年4月
ISBN 978-4-7724-0967-4

【内容】

精神科医として学生相談カウンセラーとして、大学生と出会ってきた著者によって書かれた大学教職員のためのキャンパスにおける精神医学とカウンセリングの入門書。本書は、昨今の大学生に見られる精神的・心理的な問題を症状ごとに、事例を示しながら解説したもので、周囲の人々がどう援助すればよいか書かれたガイドとなっている。

★学内Webにてバックナンバーをご覧いただけます！

平成21年度より発行している広報誌(FD Information)について、学内Webにてバックナンバーをご覧いただけます。学内Webの「教職員専用」からログインの後、「FD推進センター」ページ内にて公開していますので、ぜひご活用ください。

【学内Web「教職員専用」ページ画面】



「FD推進センター」をクリック

広報誌(FD Information)のページを開くとバックナンバーをご覧いただけます。



おわりに

FD推進にかかる取り組みについて、ご意見・ご要望などがございましたら、お気軽に事務局(FD推進センター)までご連絡ください。

また、FD推進委員会の委員の先生方を通じてご案内しております、他大学・団体等が開催するセミナーやシンポジウム等につきましても、FDへの理解を深める一助として、是非ご参加くださいますようお願いいたします。

- ◆発行日 平成28年11月30日
- ◆発行者 京都女子大学FD推進委員会
- ◆事務局 教務部学部事務課 FD推進センター
TEL: 075-531-7045、9121
E-mail: gakuji@kyoto-wu.ac.jp (学部事務課)
nisiyama@kyoto-wu.ac.jp (担当: 西山)

